

学校に残された歴史資料

第31回

資料紹介展

学校の宝物



●大湊山三重塔模型 大正初期 徳島工業高校蔵

平成18年4月25日[火] ▶ 7月30日[日]
午前9:30 ▶ 午後5:00

徳島県立文書館 2階展示室

展示解説

平成18年6月4日[日], 7月2日[日] 午後1:30 ▶ 3:00
徳島県立文書館 2階展示室・講座室

Tokushima Prefectural Archives

●河郷文庫 建設中

●徳島工業高校 公文書

●若越歴史館内部



文化の森総合公園 徳島県立文書館

www.archiv.tokushima-ec.ed.jp

いあいさつ

学校には、教育活動を記録した歴史資料が数多く残されています。

学校の設立や組織などを示す公文書、児童生徒の活動記録である学籍簿や指導要録、入学式や卒業式など学校行事の記録、生徒の作品や指導のために作成された教材、部活動の活動記録や表彰状、その他日常的な学習活動の記録など、学校における記録資料はそれぞれの学校独自の教育活動を示すものであり、生徒や教師の学校での生きた証（あかし）といえるものです。

また、学校は地域社会と深く関わっています。地域の人々の要望や期待の中で学校が設立され、地域社会の活性化をになつてその使命と役割を果たしてきたのです。

県内の学校に残された歴史資料の調査を行っていますと様々な発見があります。

現在話題となっている映画「バルトの楽園」は、板東俘虜収容所を舞台とする第一次世界大戦時の徳島にきたドイツ人俘虜と地元の人々との交流がテーマとなっています。徳島県立工業学校（現徳島工業高等学校）においても、俘虜たちが技術指導に訪れていたことが、学校に保存されている「工場日誌」に記載されていました。松江豊寿収容所長の寛容で人道的な収容所の運営が、世界でもまれな国際交流を生んだと

して感動を呼んでいます。学校にもその歴史的な足跡があったのかと感銘を受けました。

このように学校に残された歴史資料からは、地域の歴史を明らかにしていくための貴重な手がかりを発掘することができます。

記憶や思い出は、人間の創造的な活動にとって重要な働きがあることを最近の脳科学は指摘しています。現在をしつかり捉え、未来を見通していくために不可欠なものです。

ただ記憶はあやふやなものです。記録は記憶を確実に裏付けるものです。記録がなければ生きたという証まで失いかねません。記録を残すことの意味もここにあります。

第三十一回資料紹介展を「学校の宝物」としましたのも、この展示を通してそれぞれの学校に保存されている歴史資料を、歴史的文化的価値をもつ「宝物」として捉え直し、地域社会や学校教育の新しい創造のため活用していく契機になれたらと考えたからです。

今回は県立学校を中心に調査を進めましたが、徳島県立徳島工業高等学校や脇町高等学校など数多くの県立学校から全面的なご協力をいただき、また小林勝美海部高等学校同窓会長には学校資料の保存についてご教示をいただきました。心よりお礼を申し上げます。

平成十八年四月二十五日

徳島県立文書館長 立石恵嗣



焼け焦げた学籍簿(城南高校)
昭和20年7月4日の徳島大空襲の時に、
燃える校舎の中から救い出された。

学校の宝物

学校に残された歴史資料

教材・教具・生徒作品・公文書・写真… 学校には様々な資料が残されている。これらは単に学校の教育活動を示す資料というだけにとどまらず、そこに学んだ個人や地域の思い出や活動の「証」となる「宝物」といえる。現在進められている学校の統廃合や校舎の新築・耐震補強工事などによって、それぞれの学校に保存されていた貴重な学校資料＝「学校の宝物」が散逸・消滅の危機にさらされており、その保存・活用が緊急の課題となっている。今回の展示では、主に県内の高等学校に残されていた学校資料や、その保存に向けた取り組みの一端を紹介する。これを機に、各校に眠っている「宝物」の掘り起こしとその活用が一層進むことを願っている。

海部高等学校

旧制海部高等女学校
(旧海南高等学校)

戦時下の女子学徒動員の記録

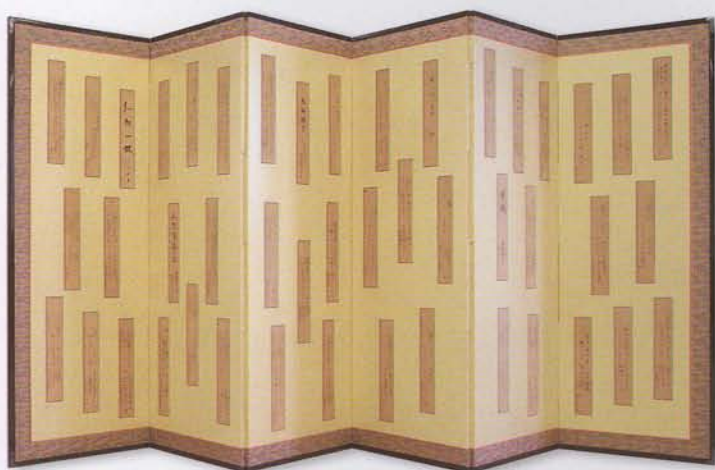
昭和十九年（一九四四）十

公文書が残されている。

月、海部高等女学校生徒に学徒動労報国隊の出動命令が下り、当時の四年生約百名が大阪市軍需工場で銃剣製作に従事した。この勤労奉仕は食糧や物資が極端に不足し、空襲にさらされるという困難な状況の中で、翌昭和二十年六月まで続けられた。この間の昭和二十年三月には、当時の金澤治校長と担任の野尻恵美教諭が卒業証書を風呂敷包みで持参し、会社の会議室で第二十回海部高等女学校の卒業式が挙行されている。

また、同校には学徒動労報国隊の生徒たちが出動記念として歌・俳句・言葉などを書き記した短冊を張り込んだ六曲屏風が残されている。いづれも戦時下の海部高等女学校の歴史を物語る、貴重な「学校の宝物」である。

海部高等学校には「学校報国隊会計書類綴」（昭和二十年）「学徒隊書類」（同年）などの学徒動労報国隊に関する貴重な



▲海部高等女学校生徒の短冊を張り込んだ屏風

学校の「今」を未来に伝える「校誌」

現在徳島県内の公立高校の大半が、毎年「校誌」と呼ばれる学校誌を発行している。これほど多くの学校が継続的に校誌を発行している都道府県は他には無いと言われている。

戦前の全国の旧制中学校や高等女学校では校友会誌が発行されていた。徳島県でも明治三十三年（一九〇〇）創刊の旧制徳島中学校（現城南高校）「渦の音」を皮切りに、各校で校友会誌が発行されていた。

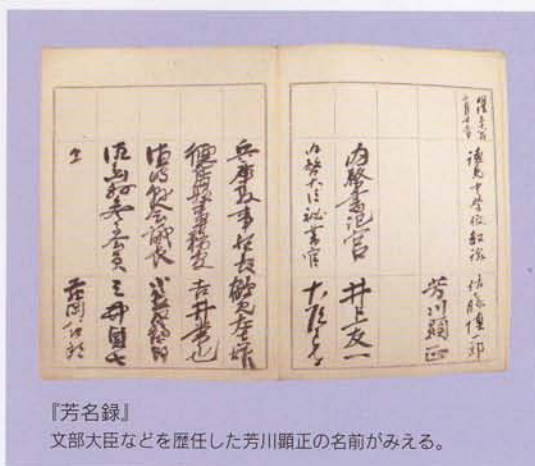
校友会誌は戦中の物資不足から昭和十八（一九四三）に一斉に姿を消し、復活することはなかった。ただ、徳島県のみは昭和二十九年（一九五四）に「渦の音」が復刊され、他の高校でも次々と新しい校誌が創刊されていった。

これらの校誌は、その一年間の学校の活動を記録し、未来に伝える歴史の「宝箱」といえる。

富岡西高等学校 旧制富岡中学校

「芳名録」が語る学校の歴史

富岡西高校の歴史は明治二十九年（二八九六）の徳島県尋常中学校第二分校創立（明治三十二年に富岡中学校として独立）に遡る。同校には一冊の「芳名録」が保管されている。そこには「明治三十五年三月八日 徳島縣知事 亀井英三郎」から「平成六年九月七日 弁護士 ケント・ギルバート」にいたる延べ百九十六名の訪問年月日・役職・姓名が書き連ねられている。そのなかには、明治三十八年（一九〇五）五月に同校を訪れた芳川顕正（徳島県出身で文部大臣などを歴任）などの錚々たる顔ぶれが並んでおり、百十年という同校の歴史の厚みを物語る「学校の宝物」といえる。



「芳名録」
文部大臣などを歴任した芳川顕正の名前がみえる。

各校に残された宝物

ここでは県立学校に残る貴重な学校資料やその保存と活用に向けての取り組みの一端を紹介する。

辻高等学校 旧制三好高等女学校

三好婦人図書館

旧制三好高等女学校の歴史遺産として特筆すべきことは、昭和四年（一九二九）完成した独立図書館「三好婦人図書館」である。鉄筋三階建てで、鉄製の書架とエレベータまで備えた図書館で、記録写真には校門に入っすぐに近代的な堂々とした建物が存在している。

高津半造初代校長の理想を実現したもので、現在残された膨大な図書の高さをみてもその質量とも高い水準の充実ぶりに驚かされる。革装の「故事類苑」や「群書類従」などの学術的な基本文献は、いうにおよばず、宗教・文学・美術・物理・経済などあらゆる分野の書籍、全国紙の新聞や、「太陽」「改造」などの雑誌もきちんと製本して保存されており文字通りの「汗牛充棟」である。活版印刷された

目録も立派なもので、単に女学校の図書館というだけでなく、ここを通して地元三好郡内の教養を高めようという意気込みが伝わってくる。たばこなどの産業で栄えた三好郡の経済的、文化的レベルの高さを端的に示す歴史資料である。

◀三好高等女学校正門の右手にみえる三好婦人図書館（昭和初期）





▲ウェブスター辞書(脇町高校)



▲芳越歴史館外観

脇町高等学校 旧制脇町中学校

芳越歴史館とウェブスター英英辞書

脇町高校の校門を入ると右手に入母屋土蔵風でひさしの上にあるうだつがあげられた建物がある。明治二十九年(一八九六)の徳島県尋常中学校第一分校として創立(三年後に脇町中学校として独立)された同校の、九十周年記念事業の一環として建設された「芳越歴史館」である。県立の高等学校が自身の諸記録を自身の手で残すのみならず、平成八年(一九九六)には所蔵資料の目録まで発刊されている。まさしく学校アーカイブとしての機能を有した資料館として全国的に注目を集めている。

芳越歴史館は、その存在自体が学校また地域の宝といえるが、その中から『WEBSTER INT

ERNATIONAL DICTIONARY』を紹介する。ウェブスターといえは米国人ノア・ウェブスター(一七五八―一八四三)によって一八〇六年から作られた一連の辞書で、一八四〇年代にはアメリカ英語の辞書の代名詞となって現代まで続いている。幕末期には日本に輸入され、明治期の英語辞書に大きな影響を与えたとされている。脇町高校に残る二冊の辞書は、二〇〇〇ページ、語彙一七五〇〇〇を超える大辞典で、一八九〇年代以降に作られた国際版という最新版の英語辞書であった。中学校として開設間もない脇町高校が、英語教育の基本書籍として備えたものと思われる。

城南高等学校 旧制徳島中学校

渦の音歴史館

城南高校の歴史は明治八年(一八七五)の名東県師範学校附属変則中学校創立に遡る。同校では昭和六十年(一九八五)に創立百十周年記念事業の一環として「渦の音歴史館」が建設され、学校資料が保存・一部展示されている。その中には、昭和二十年(一九四五)

七月の徳島大空襲で校舎が全焼したとくに、炎の中から職員が救い出した焼け焦げた学簿をはじめとして、旧制徳中・城南高校の長い歴史を象徴するような貴重な「学校の宝物」が多数含まれている。



『工場日誌 建築科』
ドイツ兵俘虜の来校など、興味深い記事が見られる。

「工場日誌」に見る ドイツ兵俘虜

徳島工業高校には大正五年（一九一六）から昭和二十一年（一九四六）までの「工場日誌 建築科」という表題の簿冊が残されている。これは県立工業学校建築科の公務日誌で、同課の教育活動を知る上での基本資料となるものである。

それと同時に、「（大正五年）十月五日（木）晴 七十四度 本日俘虜収容所長松井（松江ノ誤記カ）中佐並二同所員高木大尉及俘虜二名午前中來校 同俘虜ハ独乙式塗料実験ノタメ使役」

「（大正八年）九月十八日 木 晴 七十八度 本日ヨリ独逸俘虜左記諸氏來校製作ニ着手 ハイデマン氏 建築製図 石膏細工 フライゼウインクル氏 焼繪 銅板打ち出シ細工 ウエルナー氏 通訳 シャラー氏 家具製作 グレゴリチック氏 糸鋸挽細工」などといった、興味深い情報が満載されている「学校の宝物」である。

徳島県立工業学校

徳島工業高等学校に残された学校資料

徳島工業高校は明治37年(1904)に徳島県立工業学校として創立された。創立と同時に設置された同校の建築科(明治44年までは木工科)には、数多くの貴重な学校資料が残されている。ここではこれらの「学校の宝物」の一端を紹介する。



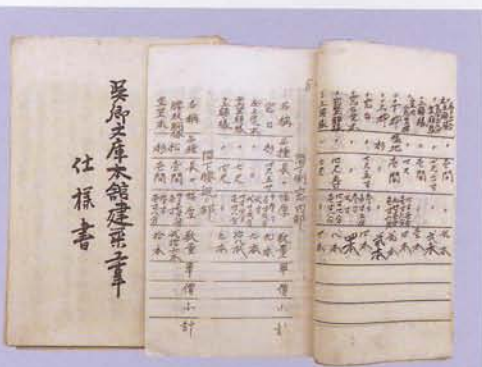
県立工業学校が建てた呉郷土文庫

県立工業学校は新技術の普及と生徒の教育を兼ねて、県内各地で委託設計や建築を行っている。麻植郡西尾村（現吉野川市）の「呉郷土文庫（ごきょうぶんこ）」もそのひとつである。

「呉郷土文庫」は実業家として知られる石原六郎が、大正四年（一九一五）に天皇即位の御大典記念として地元西尾村に建設した私立図書館である。

阿波郷土史関係を中心に最盛時には六千冊の蔵書を誇っていた。閉館後その一部は現在県立図書館が収蔵している。「呉郷土文庫」建設に関する設計仕様書・設計内訳書、設計図、建設中の写真などが県立徳島工業高校に残されている。これらは徳島県の建築史・教育史のみならず文化史の一面を語る貴重な資料と言える。

完成した呉郷土文庫(全景)▶



『呉郷土文庫建築仕様書・内訳書』

建築科作成の 木造模型

徳島工業高校の建築科に残されている模型は、その建築物自体が現在に残されておらず、細部まで綿密に作成された模型は、当時の建築物の様子を知るにはこの上ない資料といえる。

表紙写真は、昭和二十年七月四日の空襲で消失した眉山大瀧山持明院三重塔の模型である。大瀧山三重塔の建立は、寛延年間（一七四八～五一）とされ、文化九年刊の『阿波名所図会』にも描かれていたり、戦前の絵はがきなどに幅広く使われ、城下町徳島のシンボルであった。左の写真は、奉安殿の模型である。徳島県立工業学校の校内にあったものかもしれない。奉安殿とは、戦前戦中にかけて各地の学校で、天皇皇后の写真（御真影）と教育勅語を納めていた建物のこと。御真影自体は大正～昭和期にかけて下賜されたため、奉安殿の成立もその時期と推測され、この模型もその頃に作られたものと思われる。

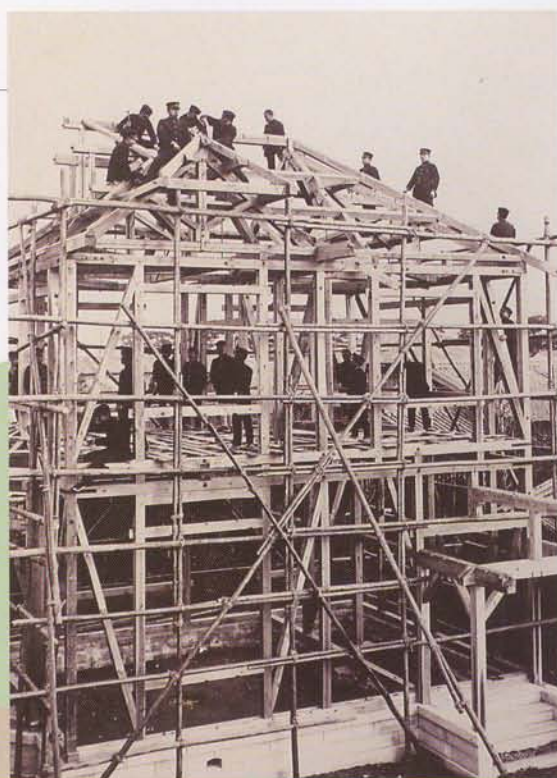


奉安殿（模型）

県立工業学校時代の 建築実習の写真

県立工業学校の生徒たちが詰襟、学帽の制服で建築実習を行っている。左の写真が完成した様子だが、これは徳島市新蔵町にあった後藤田千一郎の応接室を県立工業学校が設計・工作を委託され、実際に建築した建物である。依頼主の後藤田千一郎は川島町出身の実業家で、徳島市内にあった関西貯蓄銀行の取締役、阿波軌道会社社

長、徳島商工会議所会頭などを歴任した人物である。木造ながら一階部分にはタイルが貼られ和洋折衷のモダンな建築物であった。下の写真は戦前、徳島城内徳島公園の中にあった猿の檻も県立工業学校の生徒たちが実習工作で作成したもの。檻と小屋が一体になるように工夫された木造の工作物であることがわかる。



▲後藤田邸（工事中）



▲後藤田邸（完成後）



徳島公園にあった猿の檻▶

第30回資料紹介展 展示品目録

No.	資 料 名	年 代(西暦)	所 蔵
① 壁面ケースA 海部高校・脇町高校			
1	WEBSTER INTERNATIONAL DICTIONARY	明治28年(1895)	脇町高校
2	WEBSTER INTERNATIONAL DICTIONARY	明治34年(1901)	〃
3	卒業記念 短冊貼込屏風	昭和20年(1945)3月	海部高校
4	学校報国隊会計書類綴	昭和19年(1944)11月	〃
5	連合国軍最高司令部ノ指令ニ基ク書類綴	昭和20年(1945)9月	〃
6	恤兵寄贈品ニ関スル綴	昭和17年(1942)4月	〃
② 壁面ケースB 徳島工業高校・水産高校			
7	大瀧山三重塔(木製模型)	昭和初期	徳島工業高校
8	奉安殿(木製模型)	〃	〃
9	呉郷文庫設計図	大正4年(1915)頃	〃
10	呉郷文庫本館建築工事仕様書	〃	〃
11	好生社(病院)建築工事内訳書	大正11年(1922)頃	〃
12	板野郡松島村神社造営仕様書	戦前	〃
13	徳島県立工業学校一覧	大正4年(1915)	〃
14	校友会誌行啓記念号	大正11年(1922)	〃
15	六分儀	昭和30年(1955)8月	徳島水産高校
16	霧中號角	昭和28年(1953)10月	〃
17	救命浮環	昭和30年(1955)頃	〃
③ 展示ケース1 辻高校Ⅰ			
18	三好郡実科高等女学校昇格ニ関スル誓願	大正9年(1920)7月	辻高校
19	婦人図書館分類目録(三好高等女学校内図書館)	大正15年(1926)10月	〃
20	三好女学報	大正6年(1917)～	〃
④ 展示ケース2 辻高校Ⅱ			
21	校報(三好高等女学校)	大正5年(1916)～	辻高校
22	勤労操典(三好高等女学校編)	戦前	〃
23	徳島県教育界雑誌・改造・太陽等	大正8年(1919)～	〃
⑤ 展示ケース3 富岡西高校			
24	芳名録	(明治期～現代)	富岡西高校
25	富中公印	大正7年(1918)3月	〃
26	天照皇大神宮(棟札)	昭和9年(1934)1月	〃
27	決算書類綴	明治29年(1896)以降	〃
⑥ 展示ケース4			
28	工場日誌	大正5年(1916)10月	徳島工業高校
29	各種工具内訳簿	大正6年(1917)9月	〃
30	工場日誌	昭和20年(1945)4月	〃

※資料保存のため展示品を変更することがあります。



旧制富岡中学校(現富岡西高校)公印

編集・発行 徳島県立文書館
 〒770-8055 徳島市八万町向寺山
 電話 〇八八(六六八)三七〇〇
 印刷 原田印刷出版株式会社
 〒770-0933 徳島市西大工町四ノ五
 電話 〇八八(六二二)二三三五六

第三十回 資料紹介展
 学校の宝物 学校に残された歴史資料
 平成十八年四月二十五日 発行